

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 100 2015年3月28日発行
郵便振替口座「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

チェルノブイリ29周年救援キャンペーン 講演会&チャリティコンサート

チェルノブイリ・福島

保養 — 子どもたちを被ばくから守るとりくみ

2015年4月24日(金) 19:00開演(18:30開場)
文京シビック 小ホール(東京・文京区)



講演 鎌仲ひとみ

「保養 —
子どもたちを被ばくから
守るとりくみ」



印田千裕&印田陽介
姉弟デュオ コンサート

ヴァイオリンとチェロの響き

イベント開催のための賛同金を募集しています。一口1,000円
みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

イベントの詳細は2-3頁をご覧ください。

※このニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。郵送ご不要の方は事務局
までお知らせください。 Tel/Fax: 03-6767-8808 E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

チェルノブイリ 29 周年救援イベント 講演会&チャリティコンサート

チェルノブイリ・福島 保養 — 子どもたちを被ばくから守るとりくみ

チェルノブイリ原発事故から 29 年、福島原発事故から 4 年

“いまの放射能汚染時代に 子どもたちを病気にしないで
生き抜かせるためにできることは まだまだ沢山あります”



チェルノブイリ事故の被災地では、事故を直接体験していない次世代の子どもたちにも、白血病・血液病、脳腫瘍、骨の腫瘍、目の腫瘍、腎臓・肝臓がんなど、さまざまな病気が現れています。なかには命を落とす子どももあり、今後も国際社会の支援が必要です。

子ども基金が長年支援をしている「希望」の小児科医は、「24 日間の保養で体内放射能値を 25~30%減らすことができます。汚染地区に住む子どもは全体として体が弱いので、免疫力を高めることのできる保養は大切です」と言います。福島原発事故後の日本でも、「沖縄・球美の里」など、子どもたちの健康を危惧するさまざまな NGO が、子どもの保養プロジェクトに取り組んでいます。しかし主催側には資金を寄付金に頼っているため運営の難しさ、参加側には学校を休まなければ行けないという問題があります。子どもたちの健康を守るためには、日本でも、ベラルーシのように国の政策として保養を行うことが望まれます。

チェルノブイリと福島の母親と子どもたちの様子取材し、保養をテーマにしたドキュメンタリー映画「小さき声のカノン」を製作した鎌仲ひとみさんの講演と、印田千裕さん、印田陽介さん姉弟デュオコンサートを開催します。みなさまどうぞ足をお運びください。

4/24 (金) 19:00 開演 (18:30 開場) 文京シビック 小ホール (東京都文京区)

最寄駅：東京メトロ 丸ノ内線・南北線「後樂園駅」、都営地下鉄 三田線・大江戸線「春日駅」

入場料：2000 円 ※事前予約制。定員 (340 名) になり次第お申し込みを締め切ります。

< 講演 > 鎌仲ひとみ 「保養 — 子どもたちを被ばくから守るとりくみ」

映像作家。核や被ばく、原発の問題を入口に、人の命や暮らしについて見つめるドキュメンタリー映画を世に送り出し続けている。

< チャリティコンサート >

印田千裕 & 印田陽介 姉弟デュオ コンサート/ヴァイオリンとチェロの響き

・エルガー愛の挨拶、ダンクラ: “魔弾の射手” の主題による二重奏曲、ヘンデル/ハルヴォルセンパッサカリア ほか

〔主催〕チェルノブイリ子ども基金/チェルノブイリ子ども基金・文京/未来の福島こども基金

〔予約受付・問合せ先〕チェルノブイリ子ども基金

Tel/Fax: 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@joomzacr.ne.jp

☆イベント開催のための賛同金を募集しています。一口 1,000 円

郵便振替口座 00160-4-98316 チェルノブイリ子ども基金



里親のページ

チェルノブイリ事故から 29 年、爆発事故で放たれた放射能は、確実に次の世代の子どもたちの心と体を蝕んでいます。里子のキリアルは、1997 年 7 月生まれの 17 歳、事故後 11 年たって誕生し、13 歳で甲状腺ガンの手術を受けました。また一昨年には、先天性の心臓の病気のため手術を受けました。私と会う日も、定期的に病院へ通うその日でした。私たちは、小児病院の一角にある、彼が所属する救援団体の一室で会いました。彼の生い立ちを子ども基金から知らされ、それでも低汚染地に住まなければいけない覚悟のほどが、お母さんの顔からは、伺いしれました。親とは、子どもの病気には、自分が変わってあげることもできず、ただ見守ることしかできない。そんな気持ちが分かり合えるキリアルのお母さんと、里子のキリアルに、会ったその時から長い間の友人のような親しみと信頼が湧きました。

彼に元気かと問えば、笑って大丈夫と答えますが、毎日薬を飲み、頭痛や首の痛みがあるはず、気力を高めて私たちに「大丈夫、元気です」と話すときは心と体が緊張していると思われます。キリアルには心と体をゆるやかにする日を少しでも多く、長く持てるようにと思います。

キリアルに住んでいるコルマという町は、ゴメリ市からバスで東に 2 時間ぐらいのところにあります。高い放射能のため村人が移住し、誰もいなくなった村がすぐ近くにあり、

コルマの町からも、ミンスクやゴメリに国の支援で引っ越した人たちもいるそうです。キリアルのお父さんお母さんは、町に共にそれぞれの両親がいたため、引っ越そうとは考えなかったとのこと。キリアルのお母さん ナターシャの祖母はガンで、母は乳ガンで亡くなり、父方の母は甲状腺ガンで亡くなっています。こんな不自由な環境を造ってしまった私たち大人。今はゴメリの学校に通う彼が、どうか自分の希望する生き方ができるように、よい環境に少しでも近づくように願っています。

ベラルーシ、福島でも避難や移住のできない子どもたちの免疫力を高める為の保養施設の重要性を、改めて強く感じる訪問となりました。

日本各地では、学校単位で受け入れ可能な施設がさまざまにあります。日本の大人が一

丸となれば、知恵と努力で汚染のない地域の施設で、低汚染地に住む小・中学校の子どもたちの保養が実現できるはず。「沖縄・球美の里」が子どもたちに希望を与えているように。

(伊藤 展子)

~~~~~

伊藤さんは、「広河隆一写真展事務局」ボランティアでもあり、2014 年 9 月の「希望」設立 20 周年記念祭に、子ども基金のメンバーとともに参加しました。記念祭参加後、ゴメリ市で、参加者それぞれの里子（過去に支援した里子も含む）に会いました。写真右はキリアル、左は伊藤さんが以前支援していた里子で、現在は 2 児の母親となったリディヤ。(撮影：佐々木真理)

## 里親募集のお知らせ

1998年より開始した里親制度により、これまでに274人が支援を受けました。しかし残念なことに、そのうちの10人の子どもが亡くなっています。2月にも11歳の女の子が命を落としました。何度も入退院を繰り返し、最後は病院で息を引き取りました。チェルノブイリ事故から29年になる今も、このような悲しい出来事が続いています。

里親制度設立当初は、支援対象は甲状腺がんの子どもにしばっていましたが、2005年からは他の病気（脳腫瘍、目の腫瘍、骨の腫瘍、血液の病気など）の子どもも支援対象になっています。現在支援を受けている子どもは69人です。

ベラルーシ・ゴメリの支援団体から、新たな支援要望が届きました。この子どもの里親になっていただける方を募集しています。里親の方には、月50ドル相当を最低2年間、ご支援いただきます。はじめに子ども基金がまとめて送金し、その後、送金時のレートの日日本円で、里親の方々にご請求します。送金・事務手数料として、現在のところ支援額の10%をご負担いただいています。2年間の支援期間終了後、その時点での子どもの近況（健康状態、家族の収入など）をお知らせした上で、支援の継続・終了を決めていただきます。

ご関心をお持ちの方には、さらに詳しい資料をお送りしますのでご連絡ください。

### G・エフゲーニ（4歳・男の子）

ベラルーシ ゴメリ州 ブラーギン地区 ウグリュイ村 病名は腎芽細胞腫。2014年4月に発病。現在、化学療法を受けている。両親、妹

の4人家族。現在、病院で父親が子どもに付き添っている。母親（1993年生まれ）は、汚染地区の住民であり、チェルノブイリ事故被害者証明を持っている。

◆支援団体からのコメント：家族が暮らしている村は、チェルノブイリ汚染地区にあります。両親の収入は少なく、病気の子どものためにお金がかかり経済状態は厳しいです。ご支援いただければ大変ありがたいです。

=====

### “2015年カレンダーの表紙

#### ナターシャの近況“

私は郵便局を辞め、転職しました。今はダノン製品（乳製品）を扱う社員として4店舗を担当しています。勤務時間は9時から18時までで、決して楽な仕事ではありませんが、夕方には帰宅できて、子どもたちと一緒にいられるのが、なによりです。以前は勤務時間がもっと長く、帰宅がとても遅かったですから。子どもたちはよく体調を崩しますが、つ



い最近も風邪をひきました。私も熱がありますが、仕事を休むわけにはいきません。いろいろと大変なこともあります。なんとかやっています。

### <映画のご案内> 『広河隆一 人間の戦場』

DAYS JAPANの編集長引退宣言をした2013年から2年間にわたりジャーナリスト広河隆一に密着したドキュメンタリー映画。（上記のナターシャも、この映画に登場します。）年内公開予定。制作はドキュメンタリージャパン。詳細決まりましたら、またご案内します。

# ふくしま便り



「沖縄・球美の里」の保養に、ボランティアとして参加した前田さんからの報告です。

~~~~~

2月9日、39次保養に羽田空港から同行しました。羽田空港では、羽田ママと呼ばれる空港でのお世話をしてくださるボランティアに見送られ出発。夕方、久米島のスタッフの暖かい出迎えを受け、球美の里に無事到着しました。今回は未就学児とそのお母さん、小学生3人の計約30名でした。

2日目の午前中にオリエンテーションを受けてから9日間の楽しいプログラムが開始。

近くの教会の広い芝生での鬼ごっこ、シーサー作り、海洋深層水のお風呂、Tシャツの泥染め、沖縄のお菓子作り、黒糖工場見学（写真右）、貝殻拾いや磯観察 etc…。また地元の手話グループの方から手話を教えていただいたり、三線グループの演奏を聴いて一緒に踊ったり、代表の広河さんは地元高校の写真部の指導をしたりと地域の方との交流も積極的に行っています。これだけでは普通の臨海学校のようなのですが、甲状腺の検査、小児科医の黒部先生や甲状腺の検査を担当する藤田先生との交流会での様子を見ると、保養者の方の現状を改めて痛感しました。

毎日いろいろなプログラムが組まれています。参加は自由なうえ、自由時間も十分あり、球美の里内でゆっくり過ごすこともできます。球美の里は、普段を過ごす生活棟の他、ピラミッドと呼ばれる建物、図書館とママカフェがあります。ピラミッドは以前陶芸用の窯として使われていたピラミッド型の建物で、天井の明り取りから優しい光が差し込む中で、ぬくもりのある木のおもちゃで遊ぶことができます。図書館は落ち着いた空間で、たくさんの本に囲まれ

て何時間でも読書ができそうです。図書館に併設しているママカフェはソファに座って寛ぐスペース。大きな窓からは遠くに真っ青な海が一望でき、保養の方がいない間は地元の方が利用できる、島で一番素敵な図書館カフェにもなります。その他、かくれんぼにはうってつけの起伏に富んだ庭や、広い砂場で自由に遊べます。また、ボランティアが特技を活かしたイベントもありました。今回は美容師の即席床屋さんや、セラピストによる親子マッサージのワークショップ等、保養者の方にとっても喜ばれていました。私も次回までに何か特技を身に着けたいと思いました。

広河さんは中東から帰国したその足で来られました。疲れた様子も見せず、保養者の様子を見守り、球美の里全体の管理に努めていらっしゃいました。夜、広河さんと久米仙（泡盛）を飲みながらゆっくり話をする時間も持て、とても貴重な体験でした。

39次保養では病人や怪我人もなく、スタッフ・ボランティアは皆、球美の里の理念をしっかり心にとめ、そこに集まった全員が協力して素晴らしい10日間にする事ができました。久米島のきれいな空気、地元の方

方が心をこめて作ってくださる本当においしい食事でも体の内側から浄化されたように感じます。

羽田空港で解散した時は名残惜しかったですが、次はいつ参加しようかと計画を練り始めています。 (前田 好)

~~~~~

前田さんはチェルノブイリ子ども基金のボランティアとして、このニュースレターの発送作業や、イベントのお手伝いなどもしてくださっています。



## <嘔吐と下痢の話>

★嘔吐と急性下痢の主な原因は急性胃腸炎で、原因は80%がウイルスです。

ウイルスでは、ロタウイルス、アデノウイルス、ノロウイルスなどがあります。乳幼児ではロタウイルスが多く、5歳以下では、ロタウイルス、アストロウイルス、アデノウイルスが多く、ノロウイルスは年長児と成人に最も多いですが、幼児もかかることがあります。

★臨床症状は、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢（水様性、血性）、発熱などが主です。

特徴は、ロタウイルスでは、通常48時間以内の潜伏期間の後、発熱と嘔吐で始まり、続いて頻回の水様性下痢が起こり、5～7日は続きます。アデノウイルスは長期間の下痢（10～15日間）の傾向があります。ノロウイルスは、潜伏期間が短く（普通12時間くらいで、まれに72時間のこともあります）、吐き気と嘔吐と腹痛が主症状で、半数に下痢があり、1～3日で治ります。ウイルスの排泄も2～3日間で終わります。成人の80%以上が、このウイルスに対する抗体をもっていて、成人でかかるのは、変異しているためと言います。

★感染経路は、主に便に汚染された食物や水を飲食した人から人への感染です。手洗いが大切ですが、完全にはできないので、食べ物を食べる時には、箸やスプーンなどで食べることが大切です。

★治療は、吐き気と嘔吐に対する処置が重要です。始めは飲食せず、胃腸が回復するのを待ちます。吐くと飲んだ以上に、唾液、胃液（無色透明）、十二指腸液（黄色や緑色）を吐いて脱水が進みます。3～4時間待てば、吐き気がおさまることが多く、気持ちが悪い時は、できるだけ飲まないで下さい。それでも、のどがかわいたら、スプーンで2杯（5ml）くらいの少量ずつ飲ませます。少量だと吐かないことが多いですが、それでも吐くならもう少し時間をのばします。初期は5mlくらいを10分おき位に、くり返し飲ませ、それで吐かないことを確かめたら、少しずつ飲む量を増やしていきます。家庭のお茶や水でもよいです

が、進行すると電解質と糖分の適切な割合で含まれる「OS-1」が吸収がよいです。

それでも繰り返し吐く場合には、3歳以下では脱水の判定が必要ですから、小児科医に受診します。脱水の判定は、体重が一番で、3%以下の体重減少（脱水）は軽症、5～6%は中等症で点滴が必要で、7～8%以上で重症、10%以上だと死に至ります。

次は、下痢の処置です。水様性下痢の多くは、小腸からの分泌性下痢で、しばしば大量になります。嘔吐が止まれば、水分と電解質を補給します。糖分の多い飲料（清涼飲料、ジュースなど）、塩分の少ない飲料（スポーツドリンク）、市販のお茶なども、すべて不適当です。

水分の補給の次は、乳児には母乳を再開し、年長児や成人では、早期に食事を再開します。開始の目安は、お腹が空くことです。最近では、早期に食事をとることが勧められるようになりました。炭水化物（おかゆ、うどん、パン、ジャガイモなど）、果物、野菜などが良いです。脂肪が含まれるものや、ジュースや炭酸飲料は避けます。欧米では、赤身の牛肉もよいと言います（まだ一般化されていません）。

治療薬に下痢止めは用いず、腸の回復を促進する整腸剤を用います。整腸剤が小腸の回復を促進すると言われます。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

ブログ：<http://blog.goo.ne.jp/kuroshin1941>

## <黒部ドクター ミニ情報>

念願の球美の里へ行って来られました！球美の里の理事の一人でもある黒部ドクターは診療があるため、なかなか休みがとれなかったのですが、2/13から2泊3日、初の訪問が実現しました。39次の母子保養の真っ最中で、ちょうど、甲状腺検診をする日とぶつかり、検診医の藤田ドクターとも意見交換ができ、また、夜は医療相談会が開かれ、お母さんたちの悩みに答えたりして交流されたそうです。お疲れさまでした。

## チェルノブイリの歌声 ～みなさまからのメッセージ～



2月9日、東京都立中央ろう学校（杉並区）にて、事務局の佐々木がチェルノブイリ事故とその影響についての講演を行いました。講演を聞いた生徒さん（高校2年生）の感想を紹介します。



◆4年前の東日本大震災で福島原発事故が起こり、チェルノブイリ事故は今や他人事ではなくなりました。カメラの前の子どもたちは皆、何かの病気を抱えていて、苦しいはず、悲しいはずなのに笑っている。私は理解に苦しみました。年齢的には私の方が上だが、心の強さは向こうの方が勝っているのだらうと思いました。また、このように現状を伝える人も重要な役割だらうと思いました。(Oさん) ◆今回の講演会で、今までほとんど知らなかったチェルノブイリ原発事故の現状を知ることができました。保養所があって1年に24日はそこで過ごせるという制度があるということを初めて知り、国やNGOの皆さんの根強い努力を感じました。被ばくしていても友達と笑って過ごせる環境はとても貴重なものだなど実感しました。また、初めて知って驚いたのは放射能の種類によっては半分になるのに2万4千年かかるということです。人間が作ったものの事故で、人間の寿命以上に後世に影響を残すことがあるとは信じられませんでした。30年近くたっても原発事故の影響は残り続けていくのだと佐々木さんの話や子どもたちの写真を見て実感しました。自分1人の力は小さいけれど、微力であっても子どもたちのために支援をしたいと思われました。(S君) ◆チェルノブイリ原発事故はウクライナだけではなく隣国のベラルーシも被災していると初めて知りました。日本で福島第一原発事故の問題が難しいことだと改めて実感しました。原発によって被災した子どもたちは病気にかかっている人が多く大変ですが、笑顔の人が多かったのが勇気をもらいました。僕たちは聴覚障がい者ですが、病気の子どもたちと同じでなりたくてなったわけではないので今できることをたくさん見つけて生きていかなければならないと思いました。(A君) ◆日本も原発が全国各地にあるのでいつ日本にいられなくなるの

かわかりません。原子力発電は今の日本に必要なのですが、安全性を考えると廃炉にした方がいいのかもしれませんが。今回は被害にあった人々や症状などを紹介していただき放射能に対する認識を深めることが出来ました。(O君) ◆子ども基金は、事故被害者の現状を知ってもらうためにいろんなところで活動しているんだなと思いました。被害を受けた人が何人もいて、病気になってしまった人たちがいることが悲しかったし、辛かったです。だから、私はその人たちが健康でいられるように、毎日祈っています。(Sさん) ◆今でも30km圏内に住むことができない。自分が起こした事故でもないのに、突然家を引越させられてとても大変な思いをした住民もたくさんいただろう。放射能の量は広島原爆の800倍だということは信じられない。一体、どれほどの人がどのくらいの量で被ばくしたのか想像できない。ベラルーシで原発を試みようとしているが、改めて、過去を振り返って、あの悲劇をもう一度起こさないで欲しいものだ。(N君) ◆被ばくを背負っていく人々を見て、とても辛かったです。被ばくとは大変なものだと改めて思いました。誰に訴えればいいのか？罪なき人々への人工災害は、誰の責任でしょうか。それを考えさせられる講演会でした。(T君) ◆原発事故で病気になった女性が子を産み、その子どもも病気になってしまったというケースでは、出産した女性に非はないのに不安やプレッシャーを感じてしまうのではないかと思います。病気を持った人でも学ぶ機会や芸術に触れる機会や自己表現する機会があることを知った。もし私だったら、勉強させずに「寝ていなさい」と言い、何もさせません。ですが今回の講演を聞き、自分の考えの至らなさを感じました。また、チェルノブイリ子ども基金の資金源が、講演会や写真展などの開催やカレンダーなどの売上であることを知りました。募金をするだけではなくて、チェルノブイリの現状について知ることでもできるので、お互いのためになる有意義な活動だと感じました。これからも東日本大震災のことを意識しつつ、チェルノブイリについて学んでいこうと思います。日本もいずれこうなってしまうのかと思うと不安です。(Nさん) ◆被害を受けた人の中には、左目を失って義眼を付けていたり、右半身がマヒしている人もいて、さまざまな人が一部を失いながら生きていました。けれど、写真に写っていた人たち

は皆笑顔で一部を失ったとは思えない明るい顔をしていました。それは自然とふれあい、心のケアをする施設の方々や、懸命に生きようとする被害者の努力からだろうと思います。もう2度と同じことは繰り返さないように、原発事故を防ぐ手立てを考え、工夫することが、現代を生きる私たちの役割だと思っています。チェルノブイリの人々だけではなく、世界中の人々がいつまでも健康であることを願っています。(Fさん) ◆子どもたちが集まる学校では、いろいろなイベントを行い、さまざまな事にチャレンジする子どもたちはまさに人間的に倣うべき存在だろうと痛感した。また、東日本大震災後に、その子どもたちがメッセージを送ってくれたのも心に響いた。その講演会を機に友情の大切さを学ぶことができた。お互いを理解し、友情を深めることで、生きることの大切さ、意味、そして価値を悟ることができるだろうと改めて思った。(S君) ◆放射能は見えない、臭いもない。何処にあるかはハッキリとは判断できないからとても怖いと思いました。被害にあった人のための施設では、一見すると元気そうな少年少女たちに、実際は悲しいことがたくさんあることを知った原子力はとても恐ろしいんだと身に染みて知りました。(T君) ◆事故の影響で体内にいろいろな病状が出てきたり、甲状腺がんや神経系統の病気がでてきた人が増加していてとても悲しかったです。これは政府の対応処理に問題があったと考えられます。今回の講演会を聞いて、原子力発電所事故による被害と現状について考えさせられました。(K君) ◆佐々木さんが思い通りの仕事に就けなかった時もロシア語の勉強を続けたと聞いて、自分も何か挑む時は諦めず頑張ろうと思えました。放射能が半減するだけでも長い時間が必要になることに驚きました。事故後、今でも自分の家に住むことが出来ないところがあるのも衝撃でした。どんな壁にぶつかっても乗り越えていけるように努力して夢を追いかけようと思いました。(N君) ◆私は原発に反対です。もちろん原発がなくなると、私たちの生活に影響が出てしまうことは知っていますが、それがもし事故が起きてしまったら？取り返しのつかないことになります。二度と福島原発事故のようなことが起きないようにと私は願っています。(U君) ◆チェルノブイリ原発事故についてたくさんを初めて知りました。サナトリウムでの活動や、放射能の半減期などについて。話を聞いて私は福島原発事故を思い出しました。今まで、東京と福島は離れていることもあり、原発事故について実感はあまりありませんでしたが、今回をきっかけにいろいろ考えるようになりました。(Oさん) ◆被ばくにもめげず生きて

行く人もたくさんいて、たかが鼓膜に異常があることぐらいどうだっていい、という気持ちになり、励まされました。もう一つは、プルトニウムの半減期の長さ、我々の子孫のそのまた子孫の代のことを想像してみたら、とてつもなく遠い未来だと感じました。チェルノブイリ原発が事故を起こしてから今年で29年であり、日本の福島第一、第二原発が津波で破壊されてから今年で4年。これは他人事ではなく、身近で起きた事故であり、もう二度とこのような事故を起こさないように世界中の人たちが充分過ぎるほど気を付けなければならないことを改めて実感しました。(W君) ◆3/11に起きた原発事故の恐怖をこの時間に改めて感じました。チェルノブイリ原発事故により、どのくらい苦しんでいたか、悲しんでいたか。本人たちの心は簡単に治すことはできません。放射能ある自分の地元で住みたいと発言するおばあさんがいた事に驚きました。確かにいきなり知らない地に引っ越してから29年経ち、そろそろ地元に戻りたい気持ちが溢れているんじゃないかと思いました。あと、原発の原因は今でも不明だそうです。僕にとってはそれが嫌だなと思いました。原発はコストが低いと言われていますが、命に関わるという事を改めて思いました。(Y君) ◆原子力発電所は事故が起きると、30km圏内は避難しなければならない程、危険な発電所になる。核燃料を使っているので、事故が起きると放射能が漏れだし、特に子どもや赤ちゃん、又は胎児への悪影響は著しい。放射能の半減期は種類によってさまざま、8日~2万年くらいかかる。避難地域に戻るのには、1年以上はかかる。とてもやっかいなことだと思いました。だから、二度と原発の事故が起きないようにして欲しい。二度と起こらないようにするためには、工夫が必要ですが、今すぐでは不可能だと分かった。(H君) ◆今までチェルノブイリ原発事故はただ大きな爆発が起きただけかと思っていた。しかし、今回の講演で事の重大さを知った。日本にも福島原発事故によって家に帰れない人々や、海水汚染や汚染水などの問題がある。チェルノブイリ原発事故の結果、甲状腺や脳などに問題が起きてしまう事を初めて知った。日本にも一応検査等はあると思うが、公表されていないので、福島原発事故が二度とあってはならないという気持ちがなかなか生まれない。だから日本でも、人の名は出せなくても割合などのグラフを公表すべきだと思った。エネルギー発電より人の命の方が大切だからだ。講演を聴かないと知らなかった事がたくさんあったので、聴いてよかったと思う。(Nさん)

(※講演は、3人の先生の交代による手話通訳付きで行われました)

2014 年度決算報告書  
【2014年1月1日～12月31日】

| 収 入             |                   | 支 出             |                   |
|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| 項 目             | 金 額               | 項 目             | 金 額               |
| 前期繰越            | 14,972,438        | 救援              |                   |
| 募金              |                   | 医薬品・物品          | 1,314,451         |
| 救援一般            | 9,911,512         | 保養費             | 5,174,676         |
| 保養費             | 1,229,053         | 特別保養費           | 4,095,910         |
| 特別保養費           | 1,833,800         | 団体運営費*2         | 1,340,338         |
|                 |                   | 里子支援*3          | 4,120,680         |
| 里子支援            | 4,893,940         | 緊急支援*4          | 136,815           |
|                 |                   | 奨学生支援*5         | 61,815            |
|                 |                   | 派遣費             | 540,370           |
|                 |                   | 送金・為替手数料        | 93,500            |
|                 |                   | 未来の福島こども基金      | 478,398           |
| 救援キャンペーン        |                   | 救援キャンペーン        |                   |
| 2014年4月イベント     | 900,697           | 2014年4月イベント     | 699,201           |
|                 |                   | 2015年4月イベント     | 24,000            |
| 11月保養報告会        | 22,700            | 11月保養報告会        | 16,028            |
| 購読料・運営費*1       | 1,554,700         | 事務運営費           |                   |
| 預貯金利息           | 1,315             | 国際 Tel・Fax      | 440               |
|                 |                   | 国内 Tel・Fax      | 93,291            |
|                 |                   | 印刷・コピー費         | 141,957           |
|                 |                   | ニュースほか発送費       | 805,886           |
|                 |                   | 人件費             | 2,904,650         |
|                 |                   | 交通費             | 391,482           |
|                 |                   | 事務消耗品費          | 161,326           |
|                 |                   | 事務所費            | 1,158,984         |
|                 |                   | 広告・宣伝費          | 29,594            |
|                 |                   | 資料・会議費          | 20,910            |
|                 |                   | 国内振込手数料         | 2,274             |
| 物販売上            |                   | 物販仕入            |                   |
| 本・ポストカード・CD・民芸品 | 88,900            | 本・ポストカード・CD・民芸品 | 3,674             |
| カレンダー2014       | 1,096,080         | カレンダー2014       | 12,486            |
| カレンダー2015       | 2,463,130         | カレンダー2015       | 1,093,109         |
| <b>小 計</b>      | <b>38,968,265</b> | <b>小 計</b>      | <b>24,916,245</b> |
|                 |                   | <b>次期繰越金</b>    | <b>14,052,020</b> |
| <b>合 計</b>      | <b>38,968,265</b> | <b>合 計</b>      | <b>38,968,265</b> |

\*1 (株)カタログハウスからの運営費100万円含みます。

\*2 現地団体のスタッフ給与、事務所費など。

\*3 里子支援68人(経費1割、2015年1～6月支援分も含みます)

\*4 緊急支援1人

\*5 奨学生支援1人(年度途中の人数も含みます)

\* 切手3,912円、図書カード500円分も寄贈されています。

\* カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。2014年度のカレンダー収益は1,824,687円でした。

2014年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2015年2月16日

会計監査

監事 鈴木 由利子

監事 清水 玲子



● 募 金 状 況 2014 年 12 月～2015 年 2 月(単位:円)

|               | 12 月       | 1 月       | 2 月     |
|---------------|------------|-----------|---------|
| 募 金 件 数       | 353 件      | 193 件     | 60 件    |
| 救 援 寄 付 金     | *3,446,541 | 1,158,737 | 211,050 |
| 保 養 費         | 266,210    | 117,850   | 22,700  |
| 特 別 保 養 費     | 210,000    | 35,000    | -       |
| 里 子 支 援       | 470,030    | 1,695,280 | 270,010 |
| ニ ュ ー ス 購 読 費 | 106,000    | 56,000    | 22,000  |
| 合 計 (円)       | 4,498,781  | 3,062,867 | 525,760 |

\* 株式会社カタログハウスより運営費として募金100万円、匿名募金1万ドルを含む。ほかに現物寄付として葉書、切手を多数いただきました。

● 救 援 状 況 2014 年 12 月～2015 年 2 月(単位:円)

<ウクライナ>

◎子どもたちの生存

|                           |         |
|---------------------------|---------|
| 里子支援 12 人 (2015 年 1～6 月分) | 467,376 |
| 緊急支援 1 人                  | 35,952  |

<ベラルーシ>

◎希望 21

|           |           |
|-----------|-----------|
| 年間保養費 前半分 | 1,290,304 |
|-----------|-----------|

◎困難の中の子どもたちへ希望を

|                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| 里子支援 22 人 (2015 年 1～6 月、追加支援分) | 766,332   |
| 奨学生支援 1 人                      | 35,538    |
| 医薬品                            | 1,184,600 |
| 事務所家賃、通信費                      | 331,688   |

2015 年版救援カレンダーの収益

2,301,140 円 (2015 年 2 月末現在) 多くの皆様のご支援、ご協力に心より御礼申し上げます。福島の子ども支援への募金額については次号でご報告いたします。

パルシステム東京 (※) ・ 目黒北 A 委員会

「チェルノブイリから学ぶこと」(1/29 駒場住区センターにて、ベラルーシの子どもの保養について佐々木が、福島の子どもの保養について向井が講演を行いました。)参加者の皆さんの感想。★ベラルーシの保養の様子を知り、日本の福島の子どもたちも、長いスタンスで国の補助を受けて保養していくことの必要性を感じた。★今後、何をやっていけばいいか、考えるきっかけになりました。長い期間、他国の子どもや親のためにひたむきに活動を続けられている姿に、どれだけの人が心身ともに救われているかと思うと、心から素晴らしいと感じました。★ベラルーシの現状、保養の重要

♡ 募 金 団 体 名 一 覧 ♡

紙面の都合上、個人名は省略させていただきます。多くの方々からご寄付をいただきました。みなさまに心より感謝申し上げます。

(順不同・敬称略)

【12 月】(株)鹿王企画/田辺三菱製薬(株)/千葉友の会/弓町本郷教会女性会/恵泉女学園中学・高等学校宗教部/川西友の会/One Voice Aizu 実行委員会/(株)カタログハウス/青山学院女子短期大学同窓会/日本キリスト教会 大阪北教会 婦人会/ひばりが丘グレイス教会/浦和教会 日曜学校/日蓮正宗 防府教会/社会福祉法人 共に生きる会 川和保育園/葦の会/トランスフェリックマネジメント/東用堂治療院/日本キリスト教団 片倉教会 教会学校/広島女学院中・高等学校/ケイ歯科クリニック/ヒーリングスペース レイ 【1 月】トランスフェリックマネジメント/イエス・キリスト教会 祈りの家/松山古町教会.C.S./ (株)七つ森書館/(公財)大阪 YWC A/友愛富士見町保育園/日本キリスト教団 田名部教会/自治労日野市職員組合/ストッププラトニウム神奈川連絡会/日本基督教団 代々木上原教会/自治労横浜総務支部/三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金/川和保育園 父母の会/パルシステム東京 目黒北 A 委員会/ 【2 月】トランスフェリックマネジメント/実教出版放射能倶楽部/パルシステム東京ピースフェスタ/チェルノブイリ子ども基金 奥羽/(株)音楽センター

性がよくわかりました。球美の里は、日本の保養の先駆けとして取り組まれていると感じました。同じ原発被害者として課題を共有しながら、ベラルーシの取り組みの成功点(保養など)を生かしていけるよう、市民として声をあげていきたいと思いました。学ぶことが多く、とてもありがたい企画でした。★パル東京の募金の使われ方がリアルにわかってよかったです。(※「パルシステム東京」の平和カンパよりベラルーシの子どもたちの 2014 年特別保養費用の一部をいただきました。)

# 事務局から

## ■4/24 イベント宣伝にご協力をお願いします

友人・知人へ宣伝チラシを手渡ししたり、ご近所のお店や図書館など、また参加されるイベントなどにお持ちいただける方、事務局までご連絡ください。お送りいたします。

## ■ボランティア募集

◎事務局移転に伴い、子ども基金の紹介パンフレットに住所変更シールを貼る必要があります。平日、事務局でお手伝いいただける方、ご連絡ください。

◎ニュース発送作業(年3回:3・6・10月)

次回 日時:6/20(土)午後1時~4時頃まで

場所:東京ボランティア・市民活動センター

(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

※日程・場所が変更になる場合もありますので、ボランティア参加ご希望の方は、予めご連絡ください。

【問い】平日午前10時~午後5時 留守の場合は伝言をお願いします。T&F: 03-6767-8808

## ■「基金ニュース」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースレターを発行しています。子ども基金のHPでご覧いただけます。郵送をご希望の場合は購読費・送料(2,000円/年)です。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

## ■事務局の移転

2/15、引っ越し当日は、心配していた雨・雪もなく、事務局スタッフと理事、ボランティアの方々にお手伝いいただき、レンタカーで荷物を運び、新事務所へ。新事務所は、都心に出るには少し不便になりましたが、スペースは以前より大分広くなりました。最初の1週間ほどは、段ボール箱に囲まれながら仕事をしましたが、だんだん事務所らしくなってきました。

みなさまの中でお近くの方がいらっしゃいましたら、どうぞお立ち寄りください。上に記載の通り、ボランティア大歓迎です。おいでの際は事前にご連絡ください。

募金の減少が続いており、救援活動の継続が難しくなるのではないかと心配しましたが、事務所家賃が格段に安くなりましたので、なんとかもうしばらく続けていけそうです。どうぞこれからも皆様のご支援、ご協力をよろしく願いたします。(佐々木)



## ☆事務局からのお知らせとお願い☆

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

**すべての方に振込用紙を同封しております**  
事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

## 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書でご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読づらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

## 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

## 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書が入り用の際はお申し出ください。

## チェルノブイリ子ども基金

第7期理事会 2015年4月~2017年3月  
代表理事: 向井雪子

理事: 大戸清一 小寺隆幸 齋藤武光  
佐々木真理 中務俊之

監事: 清水玲子 鈴木由利子

顧問: 黒部信一

★今回のニュースレターは記念すべき100号です！子ども基金ニュースは1992年1月より発行しており、事務局ではすべての号を保存しています。また、1997年9月発行の30号からは、HP(下記)でご覧いただけます。これからもできるだけ活動を続け、このニュースを発行できますよう応援してください。(向井)  
[http://homepage2.nifty.com/chernobyl\\_children/new/s/index.html](http://homepage2.nifty.com/chernobyl_children/new/s/index.html)

## ●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(3・6・10月)発行●

〒177-0035 東京都練馬区南田中 2-7-7 Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト [http://homepage2.nifty.com/chernobyl\\_children/index.html](http://homepage2.nifty.com/chernobyl_children/index.html)

◇事務局ブログ <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。